

南条殿御返事

弘安元年四月一四日 五七歳

いも・は^字じか^量み悦びて給ひ候ひ了んぬ。いまをはじめぬ事に候へば、とかく申すにをよばず候。を^折り^節ふしそうそなる事候ひし間、委細の御返事に及ばずの由候ところに候。恐々謹言。

卯月十四日

日 蓮花押

南条殿御返事